

私は、1・2年次は、ほぼ全く受験を意識した勉強ができておらず、危機感を感じながらもとりあえず目の前のことばかりやっていました。3年生の春、面談をしてようやく自分の勉強が全然足りないと再認識して、切り替えたつもりでいましたが、度重なる模試でも結果を出せずにいました。学部学科は変えたくないという思いから両親と相談して最悪の場合、浪人も覚悟しました。そんな中、先生から長崎大学医学部医学科地域枠推薦を勧めていただき、大学卒業後の進路まで両親としっかり考えた上で、受験させていただくことにしました。目標がはっきりすると、徐々にやらなきゃいけないことが洗練されつつわかるようになり、「何が何でもこの日に合格するぞ！」と自分なりにがむしゃらにあがいた結果、未だに夢のようですが、ここにこうして、今の私があります。私は、そんな自分の味方になってくれた、3つのことをお話ししたいと思います。

まず、「勉強した！」と自信を持っていいえる時間です。私はぼやんとしつつも特にセンター前は自信を持って「勉強した！」といえます。できる限りのすべてのスキマ時間を何とか勉強にあて、毎日必ずやる！と決めたことはちょこちょこ地道にやりました。とっつきやすく、学校にいる間の集中力を最大限に利用することができるという点で、スキマ時間の有効活用はお勧めです。しかし、学校では授業も休み時間も放課後もほぼフルに頭を働かせることになるので、家に帰るとすごく眠たくなります。私は睡魔に弱く、無意識のうちに寝てしまっていて朝を迎えて後悔することが多かったので、センター前はご飯を食べたら睡魔に抗わず比較的すぐに寝て、朝はやく起きて勉強するようにしていました。短時間で質の高い勉強が実現できる朝型勉強法は自分にあった勉強法でした。センターでは調子にのってたてた800点超えの目標には全く及びませんでした。国語がフィーバーしたおかげで、なんとか自己ベストの8割はとることができました。

2つ目に、面接練習と理数科での活動実績で得た自信です。私はセンターの5日後に面接試験だったので、短期間に集中して対策しました。先生方はお忙しい中とことん練習につきあってくださり、医療の知識や医療に対する考えもたくさん聞かせていただき、それらを吸収して自分が思い描く地域医療像を発展させることができました。また、理数科の仲間とともに過ごし、活動した経験のおかげで、高校生活の充実度は生半可なものではないということも、面接でちゃんと顔を上げて自分を伝える自信につながりました。

3つ目に、先生方を信じてきたことです。具体的に言うと、3年間を通して、最低限、先生方から与えられてきたものはバッチリこなしてきたということです。授業はとにかく大切です。日々の授業でちゃんと理解しながら受けることが重要だと思います。課題もちゃんとやりましょう。テストもちょうどいい機会だと思って、ちゃんと勉強して、テスト範囲はバッチリだぜってかっこ良くキメちゃいましょう。与えられたものをこなすだけでは確かに足りないとは思いますが、はっきりと目標が決まるまでは先生について勉強していくべきだと思います。皆さんも知っている通り、猶興館の先生方は、本当に温かくて、各教科のプロで、大好きな先生ばかりです。この、猶興館の先生方でなければ、私は合格なんて到底ムリだっただろうと思います。本当に感謝しています。とにかく、先生方を信じましょう。

長く話をして来ましたが、言いたいことは、今までもずっと頑張ってきたみんなに自信をもってほしいということです。受験は確かに大変です。でも、なりたい自分に近づいていると思うと苦ではないはず。仲間も一緒だと意外と楽しく受験生できると思います。大丈夫です。猶興生としてちゃんと頑張ってきている皆さんなら大丈夫。「人生は思い通りになる！」と思って自分の「思い通り」を1つずつ叶えていきましょう。